

# 賀茂縣主だより

## 理事長就任にあたって

理事長 西池 成晃

奈良の小川のみそぎも過ぎ今年も盛夏がやって参りました。同族会の皆様にはご清祥の日々をお過ごしのこととお慶び申し上げます。

平素は同族会の各種事業に、とくに毎年の助成金募集へのご理解ご協力を賜り有難く厚くお礼を申し上げます。

同族会におきましては、本年三月二十九日に全役員任期満了による改選が行なわれ新たに理事十名、評議員二十二名、監事二名が選出され就任いたしました。またそれと同時に不肖私が理事長に選任され会務の推進に当たることになりました。光栄を感じますとともにその責務の重さを痛感しております。皆様のご指導とご鞭撻をひとえにお願いする次第です。

同族会は設立の趣旨からして同族全員のものです。全員が参加し意見を出し合い同族の結びつきを強くしカモの伝統的行事や文化を継承保存しさらには将来に向けての新しい文化を創造する等の活動をしてこそ意味があるものと思っております。

最近、会員の中から長年の思考を著作としてまとめられ出版された方もおられます。(注)同族とし

所人主会  
行法縣族  
発財賀同  
行茂茂同

てまた同族会として真に喜ばしいかぎりです。

今後の同族会の活動方針としては同族結束の一層の

強化を図り、またこれにより同族会の主体性を確立することであります。これの実現には全員参加型の活動を行い遠隔地の同族の方々とも情報を共有し共に考え前進することであります。

幸いなことに我々は現同族会(法人)の前身である任意団体としての「賀茂県主同族会」(昭和十五年)の会則に諸先輩が策定された活動項目があります。まずはこれを基礎として今後の実際の活動を進めて行くべきと考えます。

既にご存知のように同族会内の自主的活動チームもそれぞれのテーマを掲げ活動をしていますが一層の充実を図るためには多くの会員のご参加が望まれます。

どうか皆さん伝統ある同族会をさらに立派なものにしようではありませんか。

最後に皆様とご家族のご多幸を祈ります。

(注)

一、堀内保丸氏

「人生・このベクトル量」学際的論説

文芸社

一、故 西池和巳氏

「小さな華麗な物語」

一九九六年・夏・ヴィンシー

東京新聞出版局

## ◎新役員決定

平成十二年三月二十九日付で、同族会寄附行為(規約)に基き次の通り役員が選任(任期三年)されましたのでご報告致します。今後とも何とぞよろしくご指導ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

理事

理事長 西池 成晃

副理事長 北大路 元

常務理事(会計) 関目 季弘

理事(庶務) 松田 一雄

岡本 修

戸田 保

西池 伸

西池 勝太郎

堀内 保丸

市 和

市 光

市 芳明

市 重明

岡本 清孝

岡本 寛

中 成俊

中 隆造

錦部 克弘

藤木 隆造

藤木 秀昭

堀内 義晃

堀内 保誠

堀内 保丸

堀内 保丸

## ◎合同事務局メンバー

西池 成晃 北大路 元 関目 季弘

戸田 保輝 松田 一雄 市 忠頭

梅辻 諄 浦野 邦夫 岡本 清信

西池 隆造 藤木 文雄 堀川 潤

以上十二名





平成十二年五月五日

### 競馬会神事奉仕者

(敬称略)

#### 第三列目

右方乘尻(山本 智也)

右方乘尻(岡本 氏和)

右方乘尻(山本 宗尚)

右方乘尻(山本 浩矢)

右方乘尻(市 聡顕)

左方乘尻(浦野 邦洋)

左方乘尻(市 法明)

左方乘尻(岡本 征晃)

左方乘尻(藤木 大直)

写真に写っていないがご奉仕を頂いた方  
左方乘尻(関目 季亮)

梅辻 諄 岡本 清信 西池 成清 西池 隆造 藤木 直介  
 藤木 典直 藤木 弘直 藤木 正直 山本 経光 山本 紀博

#### 第二列目

関目 春樹

岡本 征敏

太田 重明

藤木 宜直

堀内 義晃

岡本 修

清虎

一雄

邦夫

清仁

忠顕

保輝

潤

#### 第一列目

扶 持(山本 健太)

陰陽代(堀内 保丸)

目 代(中大路顕信)

催奉行(北大路元顕)

右方念人(西池勝太郎)

神 主(建内 宮司)

左方念人(藤木 茂)

所司代(市 和顕)

雑 色

扶 持(藤木 竜直)

在實一千年祭に向けての投稿(其五)

岡本 光子(京都市北区上賀茂)

明治四十年(1907)四月二十八日

中祖在實君 九百年薦事報告書より

五十二首の内の五首

献備之歌

对花言志

従四位 三室戸治光

足曳のやまとしまねに咲花の

かくはしき名を なせよ世の人

浅野 素行

世の中のうきをわする、花陰に

遠き昔を しのふけふかな

樋口佐右衛門信琇

見後てのこる うらみを櫻花

けふの一日を いかにかもへん

廣瀬治右衛門豊蘆

九重にはほふ百枝の櫻花

わけいかつちの 神にさゝけん

曾和 佳平

山さくら朝日にほふかけみれば

けにいさきよき 色香なるかな



## 寄稿

## 我が家のお文箱

神奈川県在住 藤木 顕通

我が家に古ぼけた金箔の菊のご紋章がついた黒塗りのお文箱がある。

昭和四十年代 京都市賀茂にあった祖父 顯道の柗野邸が売却。取り壊される直前荒れた和室に忘れ去られた様に神床と共にお文箱が見つかった。

中を檢視すると黴臭い匂いが立ちのぼり見覚えのある祖父直筆の多数の書信や手記など発見され捨て去るにはしるはず私がお文箱を、従兄弟の顯房が神床を持ち帰ることにした。

四年前現役を退任するまでは商社マンとして目が完全に欧米に向けられ上賀茂神社の祭神が我々賀茂一族の祖神程度の理解に留まり、伯父 顯文が同族会の設立を提唱し会報誌 無題を頂いていたがそれ以上には興味を持っていなかった。

自営業を営んで軌道が乗りつつあった二年ほど前、不図 古ぼけたお文箱に目が止まり再び中を檢視したところ祖父の心境が赤裸々に記された手記が見つかり父 顯などから断片的に聞いていた仄聞を補強してくれた。

その他に、我が家は戦災にあい戦前

の写真は全て焼失したがこの文箱にはそれらがあつた。然し、セピア色の写真の多くは黴と汚れが不鮮明を誘った

がデジタル画像処理した結果見違えるほど鮮明な写真が復元され其処には祖母や寡妻若かりし元気な父母の姿の一端に接し感懐迫るものがあつた。

明治男の人を射すくめる鋭い眼差しは祖父や大正ダンディズムの父の姿は昭和の柔な男と比較しこれが同じ日本人のかと今更ながら驚いた。

幸い叔母の笑子が大正から昭和初期にかけて柗野邸内の生活ぶりを手記に残し金沢の叔父顯博が発行していたが、

私はこの文箱の整理を機会に戦前から平成に至る一〇〇頁足らずの手記題して 葵の花とミレニアム を記念して本年新たにカラー写真を含め約一〇〇枚程度の付録写真集改訂版を印刷し子供達や兄弟姉妹に頒布した。

更に膨大な数のカラー写真の中から

約三〇〇枚パソコンに取り込んだので黴や褐色の心配も無く半永久保存可能となり何時でも子供達とインターネット回線で再利用出来るようにした。

手記 葵の花 を書いた目的は私の子供たち三人へのメッセージだ。

私の子供たちは昭和初期から戦中戦

後の敗戦による国家滅亡の苦しみなどが普通なのだ。

私自身も戦後は社会主義に興味を持ち父とはよく反発し今の子供と基本的に同じではなからうか。子供が理解してくるには時が必要だがその多くは両親がこの世に居ない時だ。

文箱の内容は私事に亘るので憚るが分類別にデータベース化し全てを後世に残す事にした。更に顯里以降、新しい世代の子供を含む一族全てと配偶者等を賀茂氏惣系図の形式に做ってパソコンに取り込み我が兄弟姉妹や従兄弟たちにプリントを郵送したが、この系図は慶弔の都度思わぬところで役に立った。つまりいちいち名前が覚えきれないからだ。

話を昭和十年代に戻したい。私の父は祖父 顯道の三男であつたが戸籍上長男として家督を継いでいた。昭和十三年夏、家族と共に東京へ転居することに成り、祖父は文箱の中に寂しくなる心境を歌に残していた。

この間、祖父は父の跡を継ぐべき私の勉強嫌いを憂いたのであろう自ら家庭教師となり自室に私と妹の薫子の二人に特訓が始まったがなんとか逃げる

ことばかり考えている孫の目から見る祖父は何時も静かに端座し、漢籍や洋書を読んでいる姿は今でも儼に去来する。

昭和十四年夏、祖父が他界後、父は家督を顯文に返したが後年父は大政奉還と語っていた。

私の人生で最も強い衝撃を受けた言葉は大東亜戦争、米国が云う太平洋戦争と終戦の玉音放送であつた。このときの父の言葉は現在のような言論の自由が全く無い特高警察の時代先見の洞察力と物の見方は社会に出てから大変役に立った。

開戦当日、朝、国民学校六年生だった私に父は改まった態度で質問した。

今朝のニュースを聞いたか？

はい聞きました。我が帝国は米英蘭に対して宣戦布告をしました。

何を感じたか？

神州不滅の国ですから必ず勝ちます。

バカ者？ そんな気持ちでこの戦に勝てるか。米国は圧倒的強大な工業生産力で戦をしているのだ。確かに我が帝国海軍はハワイの米太平洋艦隊を全滅させたが僅か数年を経ずしてそれ以上の艦隊を作るだろう。我が帝国海軍は艦隊を作るのに十年以上もかかるのだ。



この戦は負ける。然し、陛下がお決めになった戦である。幸い、お前には弟が三人いる。お前は陛下のために軍の学校へ進学せねばならぬ。にもかかわらずお前の成績はなんだ？ 自覚をもっともっと勉強せよと大変厳しく叱られた。

戦局が怪しくなる昭和十八年頃全国各地の神社で神風と敵国降伏の祈願行事が盛んになり我々中学生も近くの東京、赤坂の水川神社に参拝させられたがこれを聞いた父は言った。神風は単なる台風、自然現象だ。神は敬うものであって頼るものではない。神に祈るのは自分の持てる力が最大限發揮出来るよう神の前で誓うためだ。武力の強化無くして戦に勝つ道は無いと云ったが伯父 顯文も私に同じことを言っていた。

当時このような発言が漏れ聞こえたら国賊呼ばわりどころか検挙されたであろうが、要は狂信的風潮が吹きすさぶ中で何が本質なのか見抜く力が必要であると教えてくれた。

戦後、我が家は塗炭の苦い極貧生活期間が続いたが池田首相の所得倍増計画や田中首相の日本列島改造計画に支えられ我々兄弟姉妹それぞれ、祖父が

別冊賀茂県主系図の巻頭言に書き残した徒手空拳の言葉通り今日の生活を築いたが国家は繁栄と同時に社会的問題も作った。

人は先達のうしろ姿や多くの友人、先輩の言葉に支えられて成長する。

失うは易く、得るは難しの言葉どおり明治天皇拝領の約一万余坪の柗野邸やその他多くの資産が失われた代償は大きいほど發展の強いバネとなった。

私が住むここ葉山の自宅から眺める風景は幼少の頃、邸内にあった両親の家から見た山並みに似て、当地は閑寂ながら遠く富士山を眺め野鳥やリスの声に囲まれ招かされざる狸まで庭に出没する海を前にした小さな町だ。

インターネットが発達したお陰で仕事上の地域格差は無くなり欧米との情報発信は瞬時にかつ電話やFAXよりも安く今や何処に住もうと業務には関係ない様になった。

年に一度くらいは京都を訪ね祖霊の墓を詣でるがその都度、ここが自分の故郷だとしみじみ思うがやや気になる事も事実だ。

活況が四条通り近くや京都駅ビル程度、他はまるで沈殿物のように元気が無い様に見える。

更に奇異に感じたことは遇えて失礼を許されるならば上賀茂神社の神職に我が同族がたった一人しかいないのも不思議な感じがする。例えば春日大社や出雲大社の宮司はそれぞれの同族出身者と理解しているが如何であろうか。

神職は僅か二十名足らずで国宝や重文の社殿を不慮の火災などから守りきれぬだろうかと不安だ。勿論、防犯設備の拡充や防災訓練の結果、少数で満足ならばそれでよいが。

宮司を始め神職たるものに奉仕は最重要だが近代的経営感覚も時に応じて必要であろう。例えば魅力ある美しくも解かり易い文章でホームページを開き日本のみならず世界に発信し我が上下両社こそ伊勢神宮の次に位する神社であることを紹介し観光案内の一助を担うべきだろう。それが世界の人々に我が国、伝統文化の理解となろう。

孤高を避けIT(情報技術)革命の潮流に乗るべきだ。何故ならば別雷神は電気の神、喜んで賛成されよう。

もう一つ苦言をはさめば上賀茂神社を紹介する平易な文章のパンフレットを用意すべきだ。一昨年だったか上賀茂神社で買った白い表紙の由緒略紀を見て驚いたことは今の若い人々に理解

困難な言葉では宝の持ち腐れとなってしまう。次世代を担うのは若い人々、特に二十一世紀は残念ながら女の時代、女性の理解が必要なのだ。

更にこの略紀一一六頁をみると賀茂族が出雲族と断定的に書かれているが如何であろうか。未だ史実として歴史考古学で定着されておらず歴史学的に見て諸説あるその一つにすぎないのだ。

要は記紀に記されている通り大変古い歴史を持っているので事実上は解明不可だ。

最後に我が家には上賀茂に住んでい

る一族の和子から頂いた葵は今年も早々と小さな赤紫の花を咲かせており又、明治天皇から顯里へ下賜された椿の挿し木が五本、元気に育ち何れも嫁入り先が決まっておりますその日がくるまで大事に育てている。

冒頭の菊ご紋お文箱は会津若松にいる叔母 笑子の長男 剛の尽力で立派に復元され往年の輝きを取り戻した。

終わりに当たり賀茂社と賀茂同族会の益々のご發展を祈り、失礼、失言はご容赦頂きたい。

平成十二年五月七日  
登場人物の敬称、敬語は略した。



葵歌壇 冷泉家玉緒会所属

上賀茂 北大路 和子

春雪

はつはつの萌ゆる若菜を摘む袖に

消えてはかなき春の淡雪

草花

藤袴たれぬきしともしら露の

こほれて涼し秋の風立つ

秋夕

夕されは鐘のひびきも虫の音も

秋はわひしく物思はする

時雨

秋はてぬ降りみ降らすみ時雨して

雲たちまよふ鄙の山里

京都文化博物館に常時展示され、永  
久保存されし歌

砧

秋風の身に沁む今宵からころも

砧打つ声千たひ八千たひ

初夏

神山の雷雲去りて黄絵日傘

河は涼風 鷺と鴨達

上賀茂 岡本 光子

会務報告

副理事長 北大路 元顯

◎第十八回理事会(出席十 欠席三)

平成十一年十二月五日開催

一、役員改選についての考え方の件  
平成十二年三月末日を以って役員改  
期を迎えるに当り、改選時の基本的な  
考え方を明確にする為議長より次の説  
明があり、次いで討議に入った。

(一)現在の同族会活動の全容は討議資料  
として席上配布されたイメージ図(理  
事会、評議員会、合同事務局及各チ  
ム名を図式化したもの)の通りであり  
これを継続発展させて行く役員の選任  
が必要であること。

(二)これらの事業は中堅、若手の役員の  
知力、労力、時間の犠牲のうえに立っ  
て推進されている。斯様な状況下で執  
行責任を果して行く考えの人を選任す  
べきと考えられること。

(三)人選基準は第十六回評議員会で討議、  
議決された次の内容によるものとする  
こと。

(イ)会務に関する各種会議に出席し、討  
議出来る人であること。  
(ロ)チーム活動に協力して頂ける人であ  
ること。

(ハ)役員数は旧来の人数にこだわらず寄  
附行為(規約)に定める員数(理事十  
名、十三名、監事二名、三名、評議員  
二十名、二十五名)の下限であっても  
良いことを確認後、改選人事原案は評  
議員会の決定と同様合同事務局に一任  
することとなった。

二、同族会会員承認申請書に関する件  
同族会会員承認申請書(家系説明図  
付)を祖先祭時に配布の際(郵送分を  
含む)の説明不足を補う為、今回提出  
して頂く方は「資格基準」に基き、新  
しく同族会に入会を希望される方のみ  
提出して頂きたい旨の文書(葉書)で

全会員に発送することの追認を得た。  
三、チーム活動に関するアンケート及  
びお願いの件

④広報(会報発行) チーム並びに今後  
事業化予定の歴史勉強会(仮称)及情  
報化システム改革(仮称)等について  
会員の方々から参加希望の有無、テ  
ーマに対する意見をアンケート方式で実  
施したいとの提案があり全員が賛成し  
た。

⑤在宅編集協力者委嘱について  
同族会の諸事業を遂行する為の一環  
として発行された会報(賀茂縣主だよ  
り)を一層充実する為、役員各位に  
「在宅編集協力者」に就任要請する為  
の委嘱案内状の配布をする事が提案さ  
れ、全員が賛成した。

四、その他報告事項

(一)広報紙紙名及シンボルマークの入選  
者に同族会の銘入りボールペンを贈呈  
する事になった(平成十二年二月二十  
日役員会に於て実施)

(二)同族会新規加入者の審査実施  
(三)来年度役員会(理事会・評議員会・  
合同事務局会議)の開催日の決定(別  
掲)

◎第十九回理事会(出席十一 欠席二)  
平成十二年二月二十日開催

一、平成十二年度事業計画及同予算の  
件  
例年の年間主要事業である系図展観、  
神事奉仕、祖先祭等について説明後こ  
れらの事業を達成する為  
イ、広報紙(賀茂縣主だより)の年二  
回発行

ロ、会員拡大策の一助として会員名簿  
の整備、家系図の整備  
ハ、競馬会神事伝承の為の儀式次第の  
見直し整備  
ニ、同族に関する歴史資料蒐集及勉強  
会  
ホ、会員相互の連繫手段としての情報

システムの構築について調査検討へ会  
員が全国的に散在していることから地  
域毎の会員相互の親睦を図る為の自主  
的活動

平成十二年度の一般会計予算案につ  
いて預金利息の大巾な減少等から前年  
度予算額と同額(二八〇万円)とせざ  
るを得なかった旨の説明後審議の結果  
全員の賛成を得た。

二、役員改選の件

第十八回理事会に於て合同事務局に  
一任するとの議決により、合同事務局  
に於て候補者二十二名(別掲)の提案  
があり全員の賛成を得た。

その他事項

一、同族会会報の紙名及シンボルマ  
ーク入選者の表彰  
◎広報紙紙名「賀茂縣主だより」  
藤木 襄治 氏

◎シンボルマーク「葵と八咫鳥」をア  
レンジしたもの  
岡本 清信 氏

両氏に対して表彰状に同族会銘入り  
ボールペンを添えて入選を賞した。

二、同族会新規加入者について審議  
「同族会会員承認申請書(平成十二年  
二月十九日現在)について審議の結果、  
申請者二十五名のうち二十三名を適格  
者とした。

(注)その他事項一及二については理事、  
評議員会に於て審査されたものである。  
◎第二十回理事会(臨時)

平成十二年三月二十六日開催

一、役員改選に伴う理事三役互選の件  
寄付行為第十四条及び第十五条二項  
に基き理事三役互選の結果、次の通り  
となり(役員名簿は別掲参照)全員の  
賛成を得た。  
二、合同事務局参加メンバーの件  
第八回理事会及び第八回評議員会に  
於て議決された合同事務局につき、今



回の役員改選によるメンバー変更の為  
理事会側メンバーとして五名を選出し  
全員の賛成を得た。

◎第十七回評議員会(出席十九 欠席三)  
平成十二年二月二十日開催

一、平成十二年度事業計画及び予算案  
の件

年間三事業(神事奉仕、系図展観、  
祖先祭)の他助成金募金を例年通り実  
施すると共に、チーム活動として①

広報事業、②系図名簿事業、③競馬会  
神事伝承事業、④歴史研究事業の立ち  
上げに向け努力するほか、⑤寄附行

為運用上の細則整備、⑥情報化シス  
テム調査、⑦地域活動等の業務を推  
進したい旨の説明があり、次に予算案

については預金利息の大巾な減少から  
前年度と同様二八〇万円として編成せ  
ざるを得なかった旨の説明後、各項目

について異議なく承認された。  
二、役員改選の件

平成十二年三月末日(三月二十八日)  
付をもって理事、監事の任期満了によ  
り、次期候補者の選任提案があり、出

席者全員異議なく選任された。  
三、その他事項

◎第十八回評議員会(臨時)  
(出席一九 欠席二)

平成十二年四月九日開催  
一、合同事務局員選出の件

西池新理事長より、合同事務局の性  
格等の説明後、事務局員として評議員

より七名を選出してほしい旨の発言が  
あり、種々審議の結果再任者四名の他  
新たに三名について三名連記の投票を  
行い新たに三名が選任された。

(注)合同事務局メンバー別掲参照のこと  
二、その他事項

(一)「群書類従」社より重文系図を活字  
化して出版(編者 東京大学 橋本

政宣 先生)したい旨の打診があり、  
同族会として同意して良いか否か諮問

があり、評議員として同意した。  
(二)出席評議員に対し、広報紙「賀茂縣

主だより」の在宅編集委員として、及  
び五月の神事競馬神事・葵祭に対する  
協力要請があった。

「同族会阪神支部(仮称)」  
発足の気運

かねてより、現西池晃理事長、現北  
大路元副理事長より、本会の阪神地

区在住の会員も増加しつつあること  
もあり、この際に同族会としても、関

東地区にならい、阪神支部を結成、主  
に大阪府、兵庫県とその隣接県在住の

会員の親睦と、今後の活動のため、そ  
の設立の準備に協力を呼びかけると言

うお話が湧出しておりました。勿論理  
事会承認事項であります。先づ兵庫

県在住の藤木秀昭評議員、大阪府在住  
の太田重明評議員に、設立準備のため

に、お智恵の拝借とお力添えをいた  
だいて、発足準備会開催にまで漕ぎつ  
けようという只今の段階まで来ており  
ます。近々に世話人会を結成し、支部

発足に向けての諸準備に取りかかろう  
と動きを始めようとしているところ  
であります。

### 賀茂曲水の宴 童子羽觴所役奉仕者

曲水の宴と云えば最近では城南宮で  
行なわれる曲水の宴が新聞紙上に見  
られるが、実は上賀茂にも曲水の宴  
が行なわれた記述があるので原文の  
まま紹介したいと思います。

細川高国曲水宴跡  
大田神社ヨリ小坂ヲ躰ヘテ蟻ヶ池ニ  
至ル東ノ谷ニアリ字ヲ姥ガ懐トイフ

山合抱スルヲ以テ此名アリ、大永六  
年細川高国時ノ文人ヲ会シテ曲水宴  
ヲ行

イシ所ナリ、高国一武人ヲ以テ此風  
流アリ其雅懐ヲ見ルベシ文明ノ争  
乱ニハ

氏人方ノ家族此ニ隠レタリトゾ。  
賀茂曲水の宴は、賀茂別雷神社第  
四

十一回式年遷宮を奉祝して、平成六  
年に復活し、境内渉溪園で毎年四月  
に開

催されて居り、曲水の宴の童子役(羽  
觴)は毎年同族会会員の子弟が奉仕  
して

おります。今年には次の諸君が羽觴  
役を務めました。

西池 氏暉(西池勝太郎氏の孫)  
。松田 直也(松田 一雄氏の孫)

。山本 幸大(山本 浩久氏の長男)  
。山本 健太(山本 裕司氏の長男)

尚曲水の宴は毎年四月に斉行され  
ますが、羽觴(盃を乗せた鳥の形を

した

舟)を川上から浮かべ、曲水の下流に  
侍る歌人に流し届ける役目で左程む  
ずかしい役柄ではありません。ご奉仕  
いただける方(小学生)は同族会まで  
ご連絡下さい。 北大路 元頭

(注) 細川右京大夫高国  
室町幕府時代の管領で、鎌倉幕府時  
代の執事と同じく將軍を助けて幕府  
一切の政務を執つたもので、斯波、細川、  
畠山の三氏が世襲的に、此の職につ  
き三管領と云う。

お詫びと訂正  
平成11年度の当法人助成金募金に  
つきまして、先日お礼と募金結果の  
報告書を皆様にお送りいたしました。

お送りいたしました。寄附者御芳名  
に次の方のお名前が脱落してあり  
ました。

藤木 光男 氏(上賀茂在住)  
堀内 保丸 氏(東京都在住)  
集約は十分精査し万全を期しまし  
たが不手際により、ご迷惑をお掛け  
しましたことに申し訳なく、お詫びし  
て訂正させて頂きます。

「編集後記」  
○同族会の新規会員を呼びかけましたと  
ころ、昨年の祖先祭(十一年十月二十四日)  
以降約二〇余名の方々の加入を頂きました。

今尚会員の皆様方の御兄弟、御子弟(満二  
〇才以上)で未加入の方がございましたら  
是非ご加入頂きますようお願い致します。

○広報チームリーダーの西池成晃氏(現理  
事長)が四月中頃病氣入院され第6号の発  
行がどうなるものかと案じられました。幸  
い副リーダーの西池勝太郎氏(現理事)

のご努力に依って発刊する事が出来、正直  
なところホット一息つきました。

○毎号お願いして居りますが会員の皆様  
のご投稿(随筆、歌、俳句、我家の歴史など)  
を待ち侘びております。奮ってご寄稿下さ  
い。(神鴨子の子)